

次世代育成にご協力いただく企業・地域の皆様へ

# キャリア教育支援ガイドブック

子どもたちの成長をよりよく支援するために



Career education support Guidebook

経済産業省

一般社団法人キャリア教育コーディネーターネットワーク協議会



## ご存じですか?「キャリア教育」

小・中・高等学校で行う「キャリア教育」には、企業や地域の協力が必要です。

「キャリア教育とは、  
社会的・職業的自立に向け、必要な  
能力や態度を育成するものです。」

いま、子ども達に「キャリア教育」が必要との声が、産業界・教育界双方において高まっています。キャリア教育とは、「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育※」です。具体的には「職業体験活動」や「インターンシップ」といった職業に直接触れる体験だけでなく、国語・算数・理科などの教科学習と実社会とのつながりを理解させる活動なども含まれます。大切な教育活動ですが学校内だけでは難しいことも多く、企業・団体等の協力が求められています。

※平成23年1月中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について(答申)」より。



## 「キャリア教育が必要な 3 つの理由。」

1

### 「将来を考える」 きっかけのために

経済のグローバル化やコンピュータ・インターネットの普及に伴う社会変革により、若手人材に求められる知識・資質・技能等が高度化しています。また経済の悪化や雇用形態の多様化を背景に、学校卒業後に正社員として雇用される大学生の割合も減少しています。「採用したいがいい人材に出会えない」と言う企業は少なくありません。学校から社会へとスムーズに移行できるよう、発達段階に応じて「将来を考えさせる」ことが大切になっています。

2

### 「なぜ学ぶか」 を学ぶために

いま日本の教育の課題は「学力低下」ではなく「学習意欲の低下」である、と言われていています。高学歴化が進む一方、学習内容と社会との接点が十分とは言えず、子どもたちは国語・算数・理科などの教科学習をする意味を見失いつつあります。「なぜ、勉強をしなくてはいけないのか」。実際に教科学習での学びが、さまざまな産業や仕事の基礎になっている事例を知ることによって「なぜ学ぶか」を学ぶことができるのです。

3

### 「自立できる力」 を身につけるために

以前に比べ、子どもの精神的・社会的な発達が遅れる傾向が指摘されています。その原因はひとつではありませんが、集団遊びや異世代との交流の減少、地域コミュニティの希薄化などにより、他者との葛藤を抱えながら成長する機会が子どもから奪われていると考えられます。大人の多様な生き方や考え方に触れさせたり、さまざまな体験をさせることによって、年齢相応の発達課題を達成させ「自立できる力」の育成を支援する必要があります。

# 子どもたちに身につけてほしい力とは？



社会的・職業的自立に必要な能力や態度とは、どんな力なのでしょう。

産業界が求めるチカラ

## 「社会人基礎力」 (経済産業省)

「社会人基礎力」は「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」として、経済産業省が2006年から提唱しているものです。「基礎学力」「専門知識」に加え、それらをうまく活用していくための「社会人基礎力」を意識的に育成していくことが今まで以上に重要となると考えています。

### 前に踏み出す力 = アクション

～一歩前に踏み出し、失敗しても粘り強く取り組む力～

- 主体性 物事に進んで取り組む力
- 働きかけ力 他人に働きかけ巻き込む力
- 実行力 目標を設定し確実に行動する力



### 考え抜く力 = シンキング

～疑問を持ち、考え抜く力～

- 課題発見能力 現状を分析し目的や課題を明らかにする力
- 計画力 課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力
- 創造力 新しい価値を生み出す力

### チームで働く力 = チームワーク

～多様な人々とともに、目標に向けて協力する力～

- 発進力 自分の意見をわかりやすく伝える力
- 傾聴力 相手の意見を丁寧に聴く力
- 柔軟性 意見の違いや立場の違いを理解する力
- 状況把握力 自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力
- 規律制 社会人のルールや人との約束を守る力
- ストレスコントロール力 ストレスの発生源に対応する力



学校が伸ばそうとしているチカラ

## 「基礎的・汎用的能力」 (中央教育審議会)

2011年中央教育審議会では、社会・職業への円滑な移行に必要な力を「基礎的・基本的な知識・技能」「基礎的・汎用的能力」「論理的思考力・創造力」「意欲・態度及び価値観」「専門的な知識・技能」と整理しました。「基礎的・汎用的能力」は実際の行動として表れるという観点から4つの能力があげられています。



「チカラを伸ばしていくためには、適切な働きかけやプログラムが必要です。」

小・中・高校において、子どもがそれぞれの発達段階におけるキャリア発達上の課題を達成することができるようにするのが「キャリア教育」です。さまざまな体験が重要だからといって、非日常的な活動をさせれば何でもキャリア教育になる、というわけではありません。すべての「教育」には目標やねらいが必要です。「どんなチカラを伸ばして、どんなことをできるようにするのか」、学校と教育支援をする企業・団体側が目標を共有した上でプログラムを計画し、適切な働きかけを行っていくことが重要です。



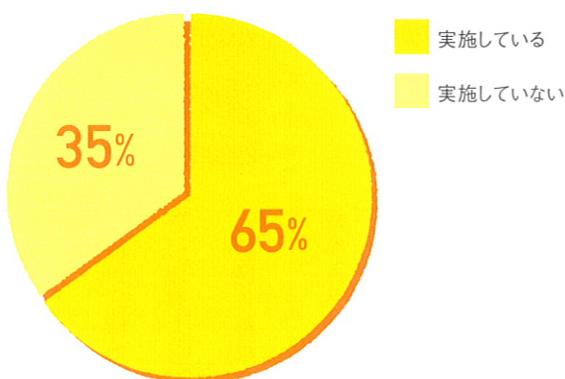


## 企業・団体が教育支援をしている理由は？

子どもたちに社会の「ホンモノ」を教えられるのは、企業・地域の皆様です。

# 「すでに多くの企業がそれぞれの強みを活かし教育支援を行っています。」

### 【企業の教育支援】 の実施状況



キャリア教育では、学校にとって企業・団体は大切なパートナーです。職場体験・インターンシップだけでなく、授業などへの社会人講師派遣、教材提供という形で、すでに6割以上の企業が何らかの教育支援をしています。

### 【教育支援活動の種類】

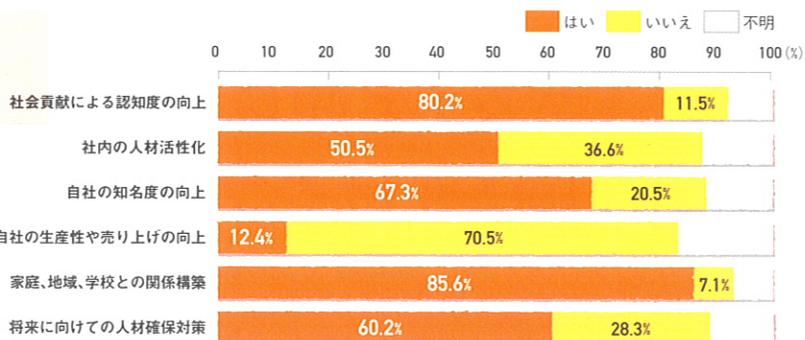


職場への受入が9割近くを占めていますが、22年には4割以上の企業が学校への講師派遣を行っています。またイベント実施やプログラムの提供などが増えており、さまざまな教育支援が広がりが始めていることがわかります。

# 「企業・団体にとってのメリットもあります。」

### 教育支援活動による 自社への効果 (教育支援実施企業のみ)

時間や手間などのコストがかかっても、教育支援をする企業が増えているのは、企業にとってのメリットもあるからです。単なる社会貢献としてのみにとどまらず、「社内の人材活性化」の機会として捉えて積極的に関わる企業も増えています。自社にとっての教育貢献活動の意義をとらえ直してみましょう。



出典／東京商工会議所「企業による教育支援活動に関する調査集計結果」(調査時期 平成22年6月)

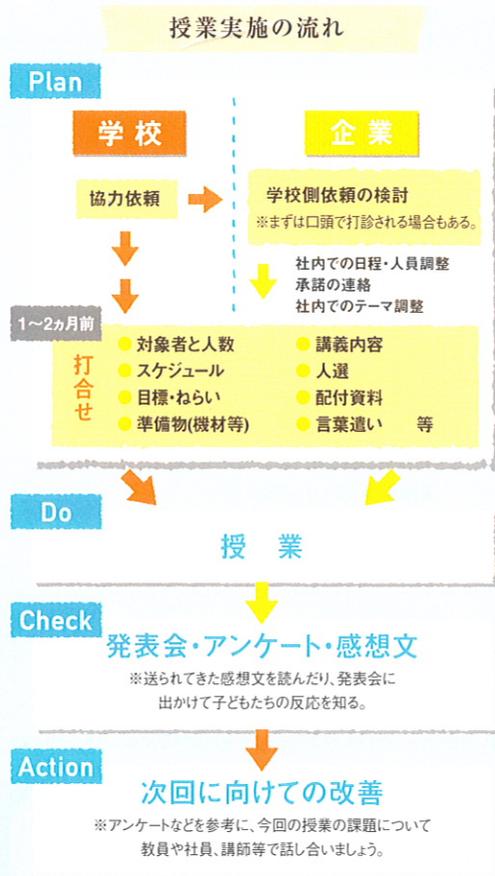
### 企業の Real Voice 声

- ◎ 教育支援をすることは社員の満足度、教育力、モチベーションの向上などに役立っている。自社の歴史やエピソードなどを通じ、ものづくりの楽しさや働くことの喜びを感じ取って欲しい。理科離れと言われるが、将来理系に進む契機になるとうれしい。(製造業)
- ◎ 将来、自社の顧客や応援団になってもらえる可能性がある。(サービス業)
- ◎ 児童・生徒の反応から日頃は得にくい情報を得られ、マーケティングの機会となっている。(製造業)



# 教育支援活動の流れ

キャリア教育に対しての学校のニーズと企業の意欲が一致した時  
子ども達に素晴らしい学びを生み出せます。



## キャリア教育プロジェクトを成功させるためには話し合いと調整が不可欠です。

通常は学校や自治体などからの打診によって、教育支援を始める企業が多いのですが、最近は企業自らが「将来の社会や若者に対する危機感」などから積極的な教育支援のために動き出す場合も少なくないようです。いずれにしても、子ども達にとってよき学びとなるキャリア教育の実践のためには、学校と企業の協力は不可欠です。

職場体験や日常では会えない大人との出会いは、そのままでは単なるイベントとなり「楽しかった」で終わってしまいます。この体験を学びに落とし込んでいくためには、教員による学校での事前・事後学習が不可欠。各学校で目標をもった学校教育が行われており、その流れの中で、企業・団体がいかに協力をしているのかが大切なのです。

いま子ども達にどんな教育や経験が必要なのか。各企業・個人でさまざまな考えがあるものの、まず大切なのは学校側の目標や参加企業に対する要望をよく知ることです。事前に学校側とコミュニケーションをとって準備すると共に、終了後に振り返りを行い、次回につないでいくことが大切です。

## キャリア教育アワード (経済産業省)

### キャリア教育に積極的に取り組む企業・団体を表彰

経済産業省では、子供・若者たちに対して、仕事のやりがいや、学校での学びと実社会とのつながりを伝える「キャリア教育」に取り組む企業・団体等の活動を表彰する「キャリア教育アワード」を開催しています。優秀と認められる取組を優秀賞として表彰し、さらにその中から最も優秀と認められる取組に対し、経済産業大臣賞を授与しています。





# 学校を知ろう!

一般企業とは異なる学校の組織文化を理解してコミュニケーションを図りましょう。

## ある小学校教員の1日の生活

「教員と連絡を取る」のは、簡単に見えて実は難しいことです。具体的に教員の1日のスケジュールを見てみましょう。

時間帯	子どもたち	教職員の行動
8:00 ~ 8:15	登校	出勤 子どもたちの様子を観察 集金事務(教材費、給食費、その他)
8:15 ~ 8:30		職員の打ち合わせ 1日の行事等の確認、教材の準備
8:30 ~ 8:45	朝の会	朝の会
8:45 ~ 10:20	1時間目(トイレタイム5分) 2時間目	1時間目(トイレタイム5分) 2時間目
10:20 ~ 10:40	中休み(業間タイム)	休息时间(15分間です)
10:40 ~ 12:15	3時間目(トイレタイム5分) 4時間目	3時間目(トイレタイム5分) 4時間目
12:15 ~ 13:00	給食の準備 準備・配膳・給食	給食の準備・給食指導 子どもたちの安全管理、指導
13:00 ~ 13:20	昼休み	休息时间(子どもの安全のための見回りもあります)
13:20 ~ 13:40	お掃除の時間	清掃指導(2~3ヵ所掛け持ち) <b>相談しやすい時間帯</b>
13:40 ~ 15:15	5時間目(トイレタイム5分) 6時間目 学年、曜日で違います。	5時間目(トイレタイム5分) 6時間目 学年、曜日で違います。
15:15 ~ 15:30	帰りの会	帰りの会 <b>相談しやすい時間帯</b>
	放課後	職員会議・研修会等が入る日があります。

※学校によって違いがあります。中学校、高等学校の授業時間は小学校より長くなります。

### 学校には独自の文化と役割があります。

- 学校には教育目標や計画があります。  
学校は学校独自の教育目標を作成し、その下に学年・学級目標も定め、1年間の教育活動を計画しています。  
年度が始まったときには、1年の計画はほとんど決まっています。
- 教員には、授業以外にも学校の仕事があります。  
学校では「校務分掌(こうむぶんしょう)」という業務分担があり、教員は子どもの安全・学校行事・地域との調整などの業務を分担して担います。
- 学校は子どもの安全を守っています。  
突然の来校者・訪問者については、安全を確かめるようにしています。  
校門に施錠する学校や、保護者が来校する場合に「保護者章」の持参などを義務づける学校もあります。
- 学校は子どもの人権を守っています。  
子ども達や家族の情報を守っています。学校に出入りして教育支援をする場合は、子どものことで知り得たことを口外しないよう、気を付けましょう。
- 教員とはタイムリーに連絡がとれません。  
表を見てわかるように、教員は多忙です。また1人1台のパソコンがある環境も少なく、メールでの連絡も難しいのが現状です。お互いの日常を理解し合い、最適な連絡方法を事前に確認しあっておきましょう。

ある教員の  
毎日  
Real Voice

◎教員の業務内容は、授業準備・授業の他、学校行事、部活動やクラブ活動、児童生徒の生活指導、保護者対応等多岐にわたります。小・中・高等学校の校種や時期によって、差はありますが、全体的に教員の勤務時間は長くなっており、1ヶ月あたりの残業時間は、平日約3~4時間、休日約8時間という調査結果もあります(※)。  
学校の教育支援をする側としては、教員のそうした背景も理解しておいた方が好ましいでしょう。  
(※平成18年度 文部科学省「教員勤務実態調査」)

## 子どもたちの現状と 企業・団体に求められる役割

子どもたちは、様々な生活体験・社会体験を通して、その成長過程において発達課題を達成していくことが望まれます。自然な地域社会との結びつきが薄くなった今、地域や社会が新たに担うべき役割があります。

### 小学校

### 中学校

### 高等学校

#### 子どもの発達段階

- 係や当番で自分の役割を果たしながら、最後までやり通す大切さや苦勞を学ぶと共に、社会の中での「役割」の大切さ等を理解していく。
- また身近な産業・職業の様子やその変化を理解し、自らの将来も漠然と考え始める。

- 自分や他者の長所や個性がわかり、チームを組んでお互いに支えながら仕事をすることを学ぶ。
- 産業や経済の変化に伴う職業や仕事の変化を知り、体験等を通じて勤勞の意義や働く人の思いを理解する。
- 将来の夢や職業を描き、自分のめざすべき将来を暫定的に計画する。

- 自分の職業的能力・適性を理解し、自己を活かせる生き方や進路について調査し、現実的に考える。
- チームワークを高めるため、リーダー・フォロアーシップを発揮できるようになる。
- 体験を通して、社会規範やマナー等の必要性や意義を理解し、習得する。

#### キャリア教育における学校の課題

- キャリア教育の意義や必要性あるいは指導内容・方法の理解について教職員間に差があるなど、教職員のキャリア教育に関する理解が必ずしも十分ではない。
- 指導内容・方法が未開発で、夢や希望の育成といった指導に偏っている。
- 学年や学校全体で取り組む組織・体制が未整備で、学級担当個々の取り組みになっている。

- キャリア教育と進路指導との関連が図られておらず、本来の理念に反して出口指導に偏る傾向がある。
- 多くの学校が職場体験に取り組んでいるが、その事前・事後の指導が不十分であり、体験活動に終始する傾向がある。
- 学年ごとの優れた活動や指導方法等が学校全体の取組みとして、継承、改善されていない。

- キャリア教育の意義や必要性の理解が不十分で、従前からの進学指導や就職指導に終始する学校が少なくない。
- キャリア教育の全体計画や各学年の年間指導計画などが立てられていない。
- ホームルーム活動等における指導内容・方法の開発が十分に行われていない。

#### 家庭や地域が果たす役割

- 将来の夢などについての家庭での会話や家事の手伝いを通して、将来の夢や希望を育む。
- 子ども会などの地域行事を通じて、異年齢の人達とコミュニケーションを取ると共に、集団生活に参加する意欲・態度を養う。

- 家庭での役割の理解と遂行、保護者や身近な大人が携わる職業を語ったり見せることで、社会の一員としての自覚を高める。
- 将来の生き方や進路への希望を育む。

- 保護者や身近な大人の生き方（キャリア）の理解を通して、将来の生き方と直面する進路の明確化を支援する。
- またその実現への努力を援助する。

#### 企業が果たす役割

- 社会見学の受入れ、社会人講師としての学校訪問、出張授業などを通して、自分と地域のつながりの理解や、子どもの興味関心の広がり支援をする。

- 職場体験の受入れ、社会人講師として職業や生き方を語ることで、将来の生き方や進路を考えさせる契機とさせる。

- インターンシップの受入れ、地域や企業の行事への責任ある参加の促しなどを通し、社会の一員としての自覚を高めさせると共に、リーダーシップやコミュニケーション能力を養わせる。

(平成18年11月文部科学省「小学校・中学校・高等学校 キャリア教育推進の手引」一児童生徒一人一人の勤勞観、職業観を育てるために」参照)  
(平成23年2月国立教育政策研究所「キャリア教育の更なる充実のために一期待される教育委員会の役割」参照)

#### 子どもの発達 Real Voice

◎ 子どもは段階的に発達しながら成長していきますが、そこには個人差があります。「いじめ」の問題、小1プロブレム・中1ギャップ(共に新しい環境になじめず、不適応を起こしている状態)、学力問題、家庭の経済状況なども、子どもの発達や精神的な安定には深く関わります。万が一、授業支援中や職場体験受入中に子どもが予期せぬ反応をするなどの問題が起こった場合は、教員の判断を求めましょう。



# 学校へ行こう!

働く大人から話を聞くことは、視野の広がりや学習意欲の向上につながります。

## ～社会人講師派遣の事例～

### 社会人講師派遣とは

#### 「働く大人」が子どもたちに語る意味

自らの経験を語り  
社会で働くことについて、  
子ども達に考えさせる。

私たち企業人には、自らが経験した職業、職種、仕事の内容に関する知識があります。次代を担う子どもたちを社会全体で育成するという観点に立ち、学校から講義等の依頼があれば積極的に協力することが求められています。企業人の話は子どもたちだけでなく、教員や保護者にとっても、実社会に触れる絶好の機会になります。

### 事前準備の留意点

#### テーマ選定

学校とよく話し合い、  
テーマを検討しましょう。

講師自身が適当だと考えるテーマと、学校が講師に求めている内容が違うことはよくあることです。事前に、話すテーマや内容などについて、担当の教員とよく話し合いましょう。また学校では発達段階に応じた教育を行うため学習指導要領等に沿って授業を進めており、対象学年によって話す内容や視点などを考慮する必要があります。

#### [たとえば環境問題をテーマにした場合の内容例]

#### 小学校

家庭でのリサイクル・省エネなど身近なテーマからはじめ、年次があがるにつれて視点を周辺地域から地球全体へ展開させていく。

#### 中学校

日本だけでなく世界各地の環境問題に触れ、自分たちの生活を「地球の中の日本」という大きな視野で問題を捉えさせる。

#### 高等学校

CO2排出量など専門用語や最新データ等を分析しながら、社会に対する問題提起と自分なりの対応策などを考えさせる。

#### 準備物・資料

事前の打ち合わせで  
パソコンなどの準備物  
を伝えておきましょう。

話だけでなく、写真や映像を見せたり、文字を読ませたり「視覚的」に伝えることで子どもたちの理解は進みます。ただし、学校のパソコンやプロジェクターは数にも限りがありますので、早めに必要な物を伝え、場合によっては持ち込むことも視野に入れましょう。

#### [資料作成の注意点]

#### 分量

●授業時間内に収まるように時間配分を考慮しましょう。学齢に応じた資料枚数となるよう配慮しましょう。

#### 仕様

●文字だけでなく、写真・図・イラスト等を使うと共に、具体的な事例や最新データを盛り込みましょう。

#### 言葉

●小学生の場合、習っていない漢字は使用しないかルビを振りましょう。また専門用語は解説が必要です。

## あるプログラムの中の 社会人講師の役割

社会人講師として学校に行く際には、あるプログラムの1コマとして呼ばれる場合も多いはず。自分の役割を知っておきましょう。また自社でプログラムを開発してキャリア教育を行うことも可能です。

「ある日突然、社会人が1コマだけ呼ばれて仕事の話をする」。このようなことはほとんどありません。社会人講師授業の事前や事後に何らかの学習があったり、職場体験のための事前学習として社会人が呼ばれたり、販売体験プログラムのマナー講師として呼ばれたり…。全体のカリキュラムの中での「自分の役割」を理解しておくことが大切です。多くのカリキュラムが下図のようなプログラムの組み合わせで成り立っています。また、こうした成り立ちを理解し、自社独自の「キャリア教育プログラム」を作成することもできます。



## 実践事例

【第二回 キャリア教育アワード 地域密着型キャリア教育部門 経済産業大臣賞受賞】

### 株式会社西島製作所「ドリカムスクール」

子どもたちの支援が社員の成長につながった



※キャリア教育コーディネーターについては14Pをご覧ください。

近隣の小学校を対象に、若手社員でチームを結成して、自社や仕事を題材にキャリア教育を行っています。「どんな授業で、何を伝えるのか」というテーマ設定から具体的なプログラムづくりまで、キャリア教育コーディネーター(※)の支援を受けながら、社員が半年がかりで準備します。2008年から継続している理由は、活動を通して子どもの学びにも社員の成長にも大きな成果を感じているから。通常の仕事をこなしながら課外活動としての授業準備を行います。 「非日常」の困難を乗り越えることで、自信をつけた社員たちは大きく成長します。また、先生方の「世界でひとつしかないもの(ポンプ)を作る場所にいるのは本当に興味深い」という言葉などから、改めて自分たちの仕事への理解が進みます。



# 子どもを受け入れよう!

「働く大人」として、働くことの厳しさや楽しさ、やりがいなどを伝えましょう。

## ～職場体験の事例～

### 職場体験に期待されること

目的や進路の意識が希薄なまま進学する若者、進路・職業の選択を先送りにする若者が増えています。将来に希望を持ち、活力に満ちた若者を育てるために、早い時期からさまざまな職場での社会体験を通して、一人ひとりの勤労観や職業観を育む職場体験学習が必要とされています。

#### 小学校

働くことの大切さや様々な仕事があることを知り、将来の仕事を考えるきっかけになります。

- 「職業観」の基盤をつくる場
- 自分の将来を考える場
- 地域社会への関心向上の場

#### 中学校

働くことの意義や目的を理解することで、勤労意欲や態度などを育むことができます。また自己理解を深めたり、地域の産業に誇りを持つきっかけともなります。

- 勤労観、職業観育成の場
- 新たな自分を発見する場
- 人間関係の大切さを体得する場
- 学校と社会をつなぐ場
- 職業生活や社会生活に必要な知識、技術に関心を持つ場
- 地域への理解を促進する場

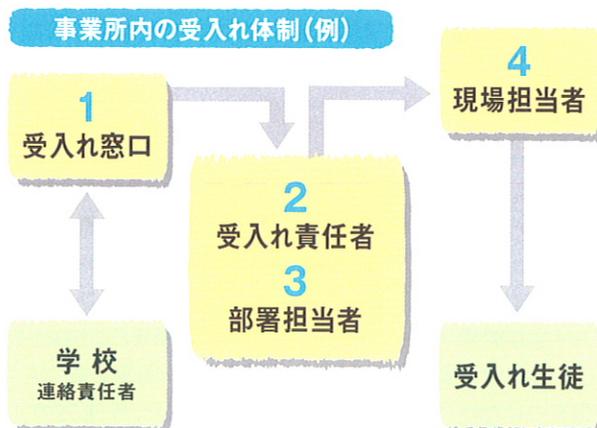
#### 高等学校

インターンシップを通して、実際のな知識や技術・技能に触れ、主体的に進路を選択決定する態度や意志、意欲などを培うことができます。

- 勤労観、職業観育成の場
- 社会人としてのマナーや言葉遣いなどを習得する場
- 職業生活や社会生活に必要な知識、技術・技能を学ぶ場
- 異世代とのコミュニケーション力向上の場

### 職場体験の受け入れ体制をつくろう

社内で役割を明確にしなが、スムーズに計画・運営をしていきましょう。



#### 1. 受入れ窓口 (総務・人事担当部署が通例)

学校との連絡窓口となって学校の要望を聞き、受け入れ方法などについて受け入れ部署と一緒に検討する。

#### 2. 受入れ責任者 (事業所の代表者)

受け入れにあたり「職場体験」全般についての責任を負います。受け入れ窓口の上長になる場合が多いようです。

#### 3. 部署担当者

受け入れ窓口と連携し、体験内容の検討やスケジュールの作成を行います。

#### 4. 現場担当者

現場での事故を避けるため安全に作業できる職場環境を作り、職場体験学習の意義を理解した上で受け入れ生徒の指導等も行います。

## 中学生の職場体験例 仕事内容例と生徒の気持ちの変化



## 5日間の体験+事前事後学習が 職場体験プログラムの基本です。

平成17年度より文部科学賞が推進している「キャリア・スタート・ウィーク」は、中学生が5日間以上の職場体験を行う学習活動です。実際には学校により体験期間は異なりますが、緊張の1日目から感動の5日目まで、時間の長さが子どもの心に変容を与えることが期待されています。また更なる学習の充実のために、事前学習で社会人講師として呼ばれたり、事後の体験発表会に招待をされる場合もあります。職場受け入れだけでなく、事前事後の学びを支援することで、子どもにとってより有意義な職場体験となります。(注 職場体験の実施日数については、学校によって異なります。)

## 5日間の具体的な職場体験プログラム

企業によって、子どもたちに経験させられる業務内容は異なります。以下はある企業の例ですが、毎日同じ業務を行うことで習熟していくことと、さまざまな業務の体験との組み合わせでプログラムを考えてみてください。

時刻	(例)スーパーマーケット	(例)部品製造工場
1日目	<ul style="list-style-type: none"> <li>オリエンテーション(安全確認等)</li> <li>店舗内案内</li> <li>挨拶、接客マナーの講習</li> <li>清掃</li> <li>在庫整理</li> <li>1日の振り返り(反省会等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>オリエンテーション(安全確認等)</li> <li>社内案内</li> <li>製品、製造工程の説明</li> <li>挨拶、態度、返事の指導</li> <li>商品取り扱い、留意点指導</li> <li>1日の振り返り(反省会等)</li> </ul>
2日目	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全確認</li> <li>清掃</li> <li>在庫整理</li> <li>商品バック詰め作業</li> <li>ラベル貼り作業</li> <li>1日の振り返り(反省会等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全確認</li> <li>清掃</li> <li>製品の箱詰め作業</li> <li>出荷準備の手伝い</li> <li>1日の振り返り(反省会等)</li> </ul>
3日目	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全確認</li> <li>清掃</li> <li>商品バック詰め作業</li> <li>レジのアシスタント</li> <li>接客</li> <li>1日の振り返り(反省会等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全確認</li> <li>清掃</li> <li>製品の箱詰め作業</li> <li>製造工程作業</li> <li>1日の振り返り(反省会等)</li> </ul>
4日目	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全確認、清掃</li> <li>商品チェック作業</li> <li>接客</li> <li>レジのアシスタント</li> <li>たな卸し作業</li> <li>1日の振り返り(反省会等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全確認</li> <li>清掃</li> <li>製造工程作業</li> <li>1日の振り返り(反省会等)</li> </ul>
5日目	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全確認、清掃</li> <li>品出し作業</li> <li>レジのアシスタント</li> <li>接客</li> <li>5日間の振り返り(感想・挨拶等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全確認</li> <li>清掃</li> <li>製造工程作業</li> <li>製品チェック作業</li> <li>5日間の振り返り(感想・挨拶等)</li> </ul>

### 子どもの Real Voice 声

#### 小学校の職場見学、中学校の職場体験、高等学校のインターンシップ後の声をご紹介します

- [小学生] ○ いっぱいおもしろいものを見て楽しかった。 ○ お店で働いている人は、見ているよりずっとたいへんだな。
- [中学生] ○ 仕事の厳しさや楽しさを知り、働くことの大切さを感じた。 ○ コミュニケーションの大切さを知りました。
- 職場体験を通じて、もっと勉強をがんばらなくてはならないと思いました。
- [高校生] ○ 将来なりたいと思っていた仕事だが、自分に向いていないと実感した。
- 学び続けることの大切さを知り、これからの進路決定に役立ちました。 ○ 企業努力の大切さと現実の厳しさを実感した。

# 講師の心構えと準備

教育支援をする際の「事前・当日・事後」の準備と心構えです。

## 事前から事後までのチェック表

下記の確認事項をチェックしていきましょう。  
このページをコピーしてお使いください。

### 事前打合せ

#### 学校との打合せ事項

- 実施日時、対象学年、対象児童・生徒数、実施場所を確認する
- 教員・学校が何を学ばせたいのか「目的」を確認する
- 児童・生徒の理解度（今、学校で何を学んでいるのか）を確認する
- 児童・生徒の発達度（身体的・精神的な発達段階など）を確認する
- 当日の授業内容について話し合う
- 当日の服装についての意見を教員に聞く
- 注意すべき言葉遣いや態度について事前に教員に確認する
- 当日使用する資料を事前に教員に送付し、文言等の確認をお願いする
- その他、配慮すべきことを教員に確認しておく

#### 学校との事務的確認事項

- 今後の連絡のため、担当の教員の連絡先と連絡可能な時間帯を確認する
- 入校方法、訪問先、実施教室について確認する
- 車を利用する場合は駐車場を確保する
- 機材を使用する場合、機材の有無を確認する
- パソコンを持ち込む場合、持込機材の使用が可能かどうか確認する
- 学校のパソコンを使用する場合、事前に使用するデータの送付先などを確認する
- 機材の使用に際して補助が必要な場合は、事前に申し入れる
- 報酬、交通費、資料・教材費などについても事前に確認する
- 自己紹介用のプロフィールが必要な場合、教員に送付する

#### 資料作成

- ポイントを絞り作成する
- 大きな字で色を効果的に使用する
- 写真、イラストを使用する
- 使用する漢字に注意する
- 説明の順序に留意した資料にする
- 最新のデータを盛り込む
- 製品・模型など具体的に分かりやすい資料を使用する

### 当日

#### 会場

- 会場レイアウトの確認ならびに、スクリーンを使う場合は全員から見えるかどうかを確認する
- 板書用のチョーク（ホワイトボードであればマジック）、マグネット等を確認する
- 講演に入る前に、携帯電話の電源を切るかマナーモードに設定する

#### 言葉遣い話し方

- 「発音ははっきりと、スピードはゆっくりと」を心がける
- 平易な言葉遣いで、具体的でより身近な例をあげて話す
- 一方的な講義にならないようにする
- 児童・生徒が発言や感想を話せるような機会をつくる
- 児童・生徒に質問をするときは指名方法などについて事前に教員に確認する
- 児童・生徒に質問し、問いかけが帰ってこない場合は、ヒントを与えながら誘導する
- 質問を受けたら、必ず（事後でもよいので）返答をする
- 教壇に立って話すときの視線は、教室全体を見渡すようにする
- (小学校の場合) 児童の近くに行くときは、視線を低くし、目線を合わせるようにする

#### 後片付け

- 借用した道具や機材があれば返却する
- 教壇の位置など元の教室のレイアウトに戻す
- 忘れ物がないかどうか確認する

### 事後フォロー

#### 事後

- アンケートや感想文の内容を確認する
- 教員と講義内容についての振り返りを行う
- 報告会等があれば、出席する

# 教育支援の当日のポイント

社会人講師・職場体験など、教育支援をする際には注意が必要です。

POINT  
1

## 「話し方」で子どもへの伝わり方が変わります。

教壇では全体を見て、一人ひとりと目線をあわせる。

教壇に立つ時は、特定の反応のいい子どもだけに話すのではなく、教室全体を見渡すように目線を配りましょう。

ゆっくりと大きな声で話をする。

子どもの集中力がとぎれないよう、わかりやすく語りましょう。うまく話そうと思わず普段の調子で話すと、子どもも緊張せずに聴くことができます。

質問などをしながら、一方的な講義にならないよう。

質問や挙手を交えるなどして、一方的な講義にはならないようにし、子どもの興味の芽をつままないようにしましょう。

特に小学生への質問は視線を低く目線をあわせる。

小学生に質問する際には、児童の近くでかがみ込み、目線をあわせるようにします。上から威圧的な声かけにならないようにしましょう。

POINT  
2

## 職業が見える「服装」で出かけましょう。

ユニフォーム等があるならば、その姿で教壇に立ちましょう。服装にも「らしさ」が見えることで、現場の体験者・実務者というイメージを与えることができ、子どもたちに職業をより身近なものに感じさせられます。

POINT  
3

## 「不適切表現・専門用語」は避けましょう。

平易な言葉遣いで話してください。常識とされている言葉、たとえば「企画」「営業」「利益」という言葉など理解できない場合があります。また配慮すべき表現についてはあらかじめ教員に確認しておきましょう。

職場体験  
受入れの  
留意点

## 職場体験の目的・スケジュールは関係する全員で理解・共有しておきましょう。

### 生徒の能力・体力を考えた作業内容

事前に教員と打合せをし、作業内容は生徒個人の能力や体力にあったものにしましょう。

### 受入れ生徒の希望も事前に確認

作業内容を決める時、生徒から将来の進路希望を聞き参考にするとよりよい学びにつながります。

### できるだけ多くの仕事を幅広く体験

様々な仕事を幅広く体験できると役割分担、チームワークのうちに成り立っている企業活動についての学びにもつながります。

### 危険な作業の体験は避ける

受入れにあたっては常に生徒の安全を確保し、危険な作業体験は絶対に避けて下さい。

# 教育支援PDCAとコーディネーターの活用

「PDCA」でふりかえり改善すること、時にはプロのコーディネーターを活用することが大切です。



どんな教育でも「**評価**」が必要です。  
学校と「**協力**」してアンケートなどをとりましょう。

学校への教育支援が終わったら、学習目標が達成できたかどうか、教育支援の手立てが有効に機能したかどうか、などを考察してみましょう。子どもへのアンケートを教員と相談して作成し、これを材料にしながら学校と一緒にふりかえりましょう。また、自分たちの活動がどれくらい役立ったのか、改善点はないのか、学校へのアンケートも大切です。(右ページをそのままコピーして使えます。) 社内の担当者にも、実際に教育支援をしてみても何を考え、どういう影響があったのか、ヒアリングしてみましょう。



「**評価**」を次に活かして、  
「**よりよい教育**」を考えることが大切です。

そうした評価やふりかえりを、次の教育支援に活かしていくことが大切です。子どもたちへの影響、社内への影響、地域や学校への影響…。さまざまな視点を捉えて、みんなで「よりよい教育」を「継続的に」支援していく方法について話しあい、考えてみましょう。



キャリア教育コーディネーターに  
「**相談**」してみましょう。

「プログラムの改善の仕方がわからない」「教育支援をしたいけれど、何から始めていいのかわからない」「もっと学校と関わりたいけれど、学校との関わり方がやっぱりわからない」…。そんな場合に頼りになるのが「キャリア教育コーディネーター」です。全国のキャリア教育コーディネーター資格取得者達が、プログラム改善や事例紹介、学校とのコーディネートなどをしてくれるはずですよ。近隣の教育団体にコーディネーターが所属していないか、気軽に下記にお問い合わせください。

お近くの  
キャリア教育  
コーディネーター・  
教育団体について  
お問い合わせ先

## キャリア教育コーディネーターネットワーク協議会

東京都杉並区上荻1丁目24番21号 協立第51ビル 3階  
電話番号03-3392-1988 FAX番号 03-5347-2373  
E-MAIL career@human-edu.jp

## [ キャリア教育／教員(学校)用アンケート ]

学校名				学年	
教科等					
実施日	単発／	月	日( )	時限目	
	連続／	月	日( )	時限目	
		月	日( )	時限目	
プログラム					
講師名					

1. プログラム内容等全般に関するご意見・ご感想(先生のねらい通りの内容でしたか)

2. 子どもたちの反応(普段の子どもたちと比べて、反応はどうでしたか)

3. キャリア教育としてのねらいの観点から(学習目標は達成できる内容でしたか)

4. 講師に対して(ご意見を忌憚なくお聞かせください)

5. 事前連絡・打ち合わせ・準備対応等について(不安なく当日を迎えられましたか)

6. その他 (今後の教育への取り組みを考えていく上で、参考にさせていただきますので  
 厳しいご意見もお聞かせください)

記入担当教員お名前

記入日

経済産業省  
一般社団法人キャリア教育コーディネーターネットワーク協議会  
<http://www.human-edu.jp/>

制作 一般社団法人キャリア教育コーディネーターネットワーク協議会

〒167-0043 東京都杉並区上荻1丁目24番21号 協立第51ビル 3階  
電話番号 03-3392-1988  
FAX番号 03-5347-2373  
E-mail [career@human-edu.jp](mailto:career@human-edu.jp)



Career education support Guidebook